

今週のテーマ
生活・文化

幸せなライフスタイルをつくる朝食文化

松本大地 / 商い創造研究所・賑わい創研代表取締役

生活文化は「もっとこうしたら生活が豊かになる」という理想や妄想から生まれる。今より価値の高い商品・サービスを生み出していく思いを具現化することで新たなビジネスになっていく。

独特の食ビジネスを育つ

9月から10月にかけて半月程米國西海岸のロサンゼルス、ポートランド、シアトルの3都市に滞在し、未体験の生活文化に触れた。ロサンゼルスでは地域スポーツと地域コミュニティの良好なつながりから派生するビジネスを、シアトルでは今年1月にお目見えした米アマゾン・ドット・コムの人材コンベニアンスストア「アマゾンゴー」での近未来ショッピングを、ポートランドでは過去に経験することのなかった豊かな朝食文化に遭遇した。

オレゴン州ポートランドは人口当たりのレストラン件数が全米一だが、背景には近郊で育まれる豊富な農業や酪農、漁業、水産加工、自然の恵がもたらす水資源からは特上のワインやビールが作られ、菜食主義者にも優しい豊かな食の街である。

独特の食ビジネスが次々と生まれ育つこの地を、10年間着目してきたのは、オーストラリアのメルボルンでレストランを経営するオーナーシェフのノーラン・ハーティ氏。満を持して17年6月にポートランドで「プラウド・メアリー」を開業した。

いきなり2店目が異国の地とはかなりの冒険だが、彼の狙いはポートランドの朝食文化にあった。「シェフはディナーには力を入れるのに、なぜ朝食には力をいれないのか」という疑問を常々持っていたと語り、世界で一番朝食を大事にしているライフスタイルのある場所がポートランドだと明言した。

Study Room



質の高い朝食で新たなライフスタイルを提案

朝7時から午後2時もしくは3時までしか営業しないレストランが多くあり、朝食は日常生活での時間割の一つである。一人で、カップルで、家族で、また朝食を食べながらのビジネス・ミーティングなど、様々な朝食シーンがある。オーガニックの野菜、お好みでつくってくれた卵とベーコンやハム料理、極上のスープにのびのびのコーヒートップルな接客が付いた朝食時間は、日本のモーニングには想像できない至福の日常体験を提供する。

従前よりマザーズビストロやビジュウカフェなど朝食文化をつくらせてきた老舗のレストランに対し、プラウド・メアリーは新たな朝食業態で挑んだ。それは朝食のヌーベルクイジーでも能く語る提案で、定番の朝食メニューに加え、旬の食材と新

半歩先を生み出す豊かさ

しい調理手法でシーズンのメニューを投入、盛り付けの美しさも加わった今までの朝食メニューから一歩踏み出した朝のライフスタイルを提案した。また、店内にコーヒータウンを作り、極上のオリジナルのコーヒーマーケットを販売する。彼は「ベストな朝食、ベストなコーヒータウンを構築する」という姿勢がポートランドの共感を呼び、オープン後から繁盛を続けている。

余談だが、私の席の隣に座った女性は、「この店はいつも朝から幸せな気持ちにさせてくれる」と語った。実はこの店のチーフシェフよりプロポーズを受け、最近ゴールインしたと幸せそうに話してくれた。

ポートランドは3時間先に日が昇るニューヨークとビジネスをするために、早朝から仕事を始める人が多い。またフレックスタイムが浸透し、朝早くから仕事をし、夕方前に切り上げてアウトドアスポーツやハッピーアワーを楽しむ。そんなポートランドは朝食を大切に、一日の良いスタートダッシュを切ることに習慣化されている。

朝の時間の有効活用を
一方、日本の外での朝食は、単に空腹を満たすだけで、時間の忙しさと貧しさから抜けきれない。良質なワークライフバランスづくりには、朝の時間を有効に使って活力を養うことで生産性も向上していく。朝食だけでなく、朝早くから開業するフットネスクラブやカルチャーセンター、ファーマーズマーケットなど、様々な生活文化と新しいビジネスが育っていきな

う。
人間にしかできないことは、新しいことを思考すること。今

の時代に不可欠なものか考え、半歩先を追求していくのがいい。一歩も二歩も先だと生活者が追いつかず、リスクも大きくなる。半歩先のアイデアを生み出すには、積極的に時代のエッジに触れ、かつ自分とは異なる価値観の人の触れ合いが不可欠だ。

日本でもブームに乗って表面だけポートランドをまねた店や商品を見るにつけ、危うさを感ずるを得ない。一見するとポートランド風やポートランドもどきにはなるが、スタイルにはならないことが失敗する要因になっている。

プラウド・メアリーはロックバンドのクリーデンス・クリアウォーター・リバイバル(CCR)の大ヒット曲と同じ店名。「うまい仕事を捨ててでもこの仕事にはやりがいがある。寝るいとまを惜しんでもやり抜く価値はある」と歌詞にある。オーナーの朝食文化にかける志は、朝の時間を豊かな幸せスタイルに変えていた。

まつもと・だいぢ マーケティング、プランニングから業態開発、プロデュース業務を推進。領域は最新のSCプランから街づくりにも及ぶ。経産省コト消費づくり委員、鎌倉市アドバイザー、FEI(ファッション産業人材育成機構)講師。全国で街づくり講演や、米ポートランドのライフスタイル、街づくり研究から新たな時代潮流を発表。18年6月リアルメリックを研究開発する賑わい創研設立。著書に『最高の商いをデザインする方法』(エクスナレッジ社)。